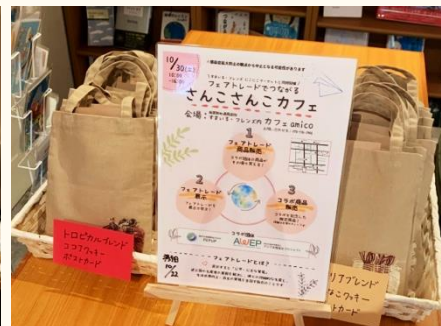


フェアトレードでつながる  
さんこそさんこカフェ



10月30日に、精神障害者を支援する特定非営利活動法人すまみらい様、フェアトレードを中心に活動している神戸大学国際協力 NGO PEPUP (ペパップ)、AWEP の三団体でコラボイベント「フェアトレードでつながる さんこそさんこカフェ」を行いました。私と PEPUP の学生を中心に五月頃からコツコツと準備を進めてきました。準備期間中を振り返ると、AWEP やすまみらい様の事務所に何度も行って会

議をし、それでも足りず ZOOM でも行い、チラシを周辺の駅に貼りに行ったり、商店街やその周辺を視察がてら散策したり、大変でした。ですが、それ以上にこのイベントを通して得たものは多く、私にとって良い経験になりましたし、一つの物事を仲間と協力して作り上げるやりがいを感じました。有難いことに、多くのお客様が来てくださり、大成功に終わり、とても嬉しかったです。

三団体がコラボするうえで共通する課題があります。AWEP と PEPUP が取り組んでいる課題：フェアトレード、これが求められているのは、貧困地域で様々な形の搾取によって生産者たちが苦しい立場に置かれていることが多いからです。日々の生活に追われ、主体的な生活設計ができないことが問題とされています。精神障害を抱える方々も、仕事という場面で苦しい立場に置かれています。これらの課題に共通しているのは日本でもあまり知られていないということです。普段の生活では気付かないけれど、誰かがどこかで直面しています。この課題を多くの方々に目を向けていただくこと、誰もが主体性を発揮できる社会を作り上げることを目標にイベントを行いました。

このイベントを通して、自分はこれができるけど、利用者さんたちはできないかも、という勝手に比較し考えていた自分がいたことに気づき、嫌悪感を抱きました。少し違うと判断されるだけで、就職が難しい、差別を受ける。勝手な固定概念があるせいで、多くの人、社会が受け入れてないことに残念に思いました。この少し違うということ、私たちがどう捉えるのが大事だと思います。この私の想いを読んでくださっている方々も一度考えていただきたいです。障害者という言葉聞いてどう感じましたか。

ネガティブに思う所をどうポジティブに捉えられるようになるか、それを私のようなこれからの社会を担う若者が変えていくべきだと思います。まだ、私に何ができるのか分からないという無力感がありますが、まずは自分自身で知識を増やしたいと思います。(高松夢子)

ボランティア紹介

松浦 あおい さん



皆さま、初めまして！松浦あおいと申します。

私は 2021 年 3 月に大阪女学院大学を卒業し、現在は公益財団法人 PHD 協会にてインターンをしています。PHD 協会の職員さん方より AWEP さんを紹介していただき、6 月からボランティアとして活動させていただいております。

大学在学中に私は、ミャンマーやネパール、マラウィなどの国を訪れ、現

地の貧困・児童労働・人権問題に直面しました。日本に住む私たちの生活を通して、各国の状況を改善するためにはどうしたらいいのか…と悩み考え、出た答えが「フェアトレード」でした。大学 3 年時よりフェアトレード部に入部し、学内外のバザーを始めとするフェアトレード普及活動に努めていました。

現在は、週に一度 AWEP さんの事務所で海外・国内事業のお手伝いさせていただいております。フィリピンやタイ、インドネシアやネパールから来た製品を見ていると、どれも個性的で可愛いモノばかりです。新型コロナウイルスの状況が落ち着いたら、現地の生産者の皆さまに、お会いしてみたい！と思う日々です。

また、AWEP さんの様々な活動を通じて、女性のエンパワーメントへの関心が深まりました。様々な悩みを抱える女性たちを少しでも支えることができるように、今後も学び続けたいと思います。

王 紫璇 さん



皆様、こんにちは。今年 10 月からボランティアをさせていただいている、中国出身の王紫璇と申します(シセンって呼んでくださいな)。今は京都大学の大学院生で、DV・ドメスティックバイオレンスについて勉強しております。好きなことがたくさんありますが、余裕のある時には料理を作ったり絵を描いたりすることが楽しみです。まだ始まったばかりですが、月に一回のボランティア活動からたくさんの感動と「いい勉強」を受けてきたのは、AWEP のおかげです。

自分はとてもささやかなことしかやっていなかったのですが、現場ではみなさんの笑顔や「ありがとう」などのことばをいただいて、改めて人の温もりを感じる事ができ、「来てよかったなあ」と常に思っております。

私のお気に入り 「手織り布マルチケース」

野田 ジーン さん (AWEP スタッフ)

私がどこでも持ち歩いているポーチ、とってもおすすめです。最初私がこのキャンパス地のマルチポーチを目にしたとき、すぐにピンとききました。とてもかわいいアイテムで、とても気に入りました。絶対これはヒットすると思います。なぜこれがお気に入りかって？ 見ての通り、とても便利でコンパクトだからです。まさに「どこでも連れていく」。私は、職場など、どこにもいくときも連れていっています。その日に必要な薬を持ち歩くこともあります。ぐらりとジッパーがついていて、開けると、なんでも入れられる広いスペースがあり、アイテムを簡単に見つけることができます。最も素晴らしい点はフィリピンの手織りの布が使われていることです。私の持っているものはイロコス地方の「イナベル」織りで、黒と白の糸を使った細かいデザインの織り布です。手織りの布はいまでは少なくなっており将来は貴重なものになるのではと思います。



My "take me anywhere" pouch is my highly recommended item. The first time I laid my eyes on this cotton canvas multi-purpose pouch, I instantly felt the connection. Being so fond of cute items, I know this one will surely be a hit. Why did I like this pouch? As you see it is very convenient and compact. That "take me anywhere" is fit for its title. I bring it anywhere I go, at work, everyday where I could bring with me all my necessary medication through-out the day. It has a semi-rectangular shape with a zipper all around. It is made of cotton canvas, you can have it stand or lay it on the table. It has a zipper all around that is so convenient to look for all your items when you open it. Upon opening it, you will see a spacious area where you can just throw in anything. It also has two separate pockets in the flap which you could put little items like your face blotter. At the back of this pocket is another pocket with zipper for your important items like for instance your passbook or things you don't want others to see like slim pads. But the most wonderful thing about this is that it has a hand-made woven fabric from the Philippines. Mine has an Inabel, Ilocos woven fabric intricately designed in black and white thread. These woven fabrics are now scarce and who knows this might be a one-of-a-kind item in the future.



My favorite item!

一方、このような女性エンパワーメントに繋がる活動現場でしか見られない、または聞こえない、色々な「つらさ」が目、耳に残ってしまったので、これから自分にはまだ何かできることがないのかを、もっともっと頑張って探し出し、少しでもみなさんのお力になればと願っております。未熟者ですが、今後とも何卒よろしくお願い致します。

Welcome!

和智 紀美子 さん

皆様、こんにちは。新しく仲間に加えていただいた和智紀美子(わちきみこ)と申します。よろしくお願いたします。

普段は、繊維の専門商社で働く会社員です。9年間、洋服の企画職でしたが、1年ほど前からは会社のサステナビリティに関わるプロジェクトを推進

する部に移動になり、地球にやさしい消費活動について考える日々です。会社員ながらも、最小限の所得で生きていく方法を模索しています。

大学の時は、芸術学を学びました。アートやカルチャーが好きで、絵画・写真・映画・文学・ファッションなど知見を広げてきました。人が何をみて何を感じて生きているのかに興味があります。生きている時代と文化の中で、他者と関わりながらも個を守り、人々がどのように考え行動するか。それを知ることで自分を理解したいと思っています。

自分の感覚や感情に振り回されがちな考え方で日々を生きていますが、自分を注視するばかりではなく周りの世界に目を向けること、手を動かして思い入れのあるものを創造することをもっとしていきたいと考え、AWEP の活動に興味を持ちました。しっかりと関わっていくには時間がかかりそうですが、無理なく少しずつ進んでいければと考えております。

AWEP にこんな形で参加できます

会員になる

運営会員 6000 円/個人  
賛助会員 3000 円/個人・団体  
AWEP の情報をいち早くキャッチ！活動を支えます。

寄付をする

いくらからでも寄付いただけます。(所得税の控除対象にはなりません。)

イベントに参加する

活動報告会、社会貢献パーティー、フェアトレード製品の展示会等、色々なイベントがあります。

ボランティアする

事務所やイベント販売でのボランティアを随時募集しています。